

代表兼CEO Keiro

ロサンゼルス、カリフォルニア



DSG | Koya

Keiroについて

Keiroは、コミュニティに根ざし長年にわたり活動してきた非営利団体であり、ロサンゼルス、オレンジ、ベンチュラ各郡の日系アメリカ人、および日本人の高齢者、そのご家族、介護者の生活の質の向上に取り組んでいます。高齢者への敬意という理念のもとに設立され、Keiroは当初は居住型ケアの提供を中心としていましたが、現在では、高齢化が進む中で変化するニーズに応える地域密着型の組織へと発展してきました。「私たちのコミュニティの高齢者の生活の質の向上」という使命は今も変わることなく、支援を受ける方々の価値観や文化、人生経験を尊重した、文化的配慮に基づくサービスの提供を通じて実現されています。

Keiroは、1961年に日系アメリカ人コミュニティのリーダーたちによって設立されました。特に一世（第一世代の移民）をはじめとする高齢者が、尊厳と思いやり、そして文化的理解のもとで安心して年齢を重ねられるよう支援することを目的としていました。設立当初はロサンゼルス日本病院を基盤とし、病院医療、特別養護老人ホーム、自立型高齢者施設などを含む包括的な「ケアの傘（アンブレラ・オブ・ケア）」モデルを構築しました。その後、Keiroはコミュニティから厚い信頼を寄せられる高齢者ケアの担い手へと成長し、コミュニティからの力強い寄付とボランティアの支援、そして文化的配慮を重視するケアへの深い献身に支えられてきました。

医療を取り巻く環境が変化する中で、Keiroはその使命に根ざしながら柔軟に対応してきました。診療報酬制度の変化に伴う1985年の病院閉鎖や、1987年のウィットティア地震後の引退者ホーム再建など、重要な転換期を乗り越えてきました。その後の数十年にわたり、Keiroは認知症ケア（メモリーケア）へと事業を拡大するとともに、デイケアや介護者支援など、コミュニティに根ざしたサービスモデルの導入にも取り組んできました。さらに、2006年にヘルス・エイジング研究所(The Institute for Healthy Aging)を設立したことで、教育や予防、そして包括的なウェルビーイングへの取り組みへと活動領域を広げ、パートナーシップの重要性も一層高まってきました。

2016年、Keiroにとって大きな転機となる出来事がありました。4つの高齢者ケア施設を売却し、施設中心のモデルからコミュニティ中心のアプローチへと完全に移行したのです。この転換により、助成事業やパートナーシップ、在宅で年齢を重ねる高齢者を支援するプログラムを通じて、支援の範囲をさらに拡大することが可能となりました。現在、Keiroはこれまでの歩みを礎に、革新と協働、そして文化的配慮に基づくケアを通じて、コミュニティにとって欠かせない資源であり、信頼されるパートナーとしての役割を果たし続けています。

Keiroについての詳しい情報は、
www.keiro.orgをご覧ください。

現在のKeiro — ケア・文化・コミュニティで支えるエイジング

現在、Keiroは、高齢者が尊厳と自立を保ちながら生活できるよう支援するとともに、平均寿命の延伸、自宅での生活を望む人の増加、そして文化的配慮に基づくケアへの需要の高まりなど、高齢化社会が抱える多様かつ複雑な課題への対応に取り組んでいます。その活動は、介護者支援体制の強化、孤立の軽減、そしてコミュニティに根ざしたサービスへのアクセス拡充を中心とした、全体的なウェルビーイングの向上を目指しています。

Keiroはもはや施設中心のモデルのみに依拠することなく、直接的なサービス提供、パートナーシップ、助成事業、そしてコミュニティのつながりを促進する取り組みを通じて、多くの高齢者および介護者を支援しています。その活動は、高齢者への直接的支援、介護者支援の強化、そしてコミュニティ資源のネットワーク構築という3つの柱を中心に展開されており、高齢者が自信と生きがい、そして活力をもって年齢を重ねられる社会の実現を目指しています。このアプローチは、「元氣リビング」の枠組みに基づき、身体的・精神的・社会的側面を含む包括的なウェルビーイングの促進を重視しています。

進化を続ける取り組みの一環として、Keiroは文化的配慮に基づく住まいとケアへの高まるニーズに応える新たなモデルの検討を進めています。高齢者に対し、思いやりと文化的背景に配慮した支援を提供するボード&ケアホーム、Keiro Kikyo Home、の開設は、地域密着型の暮らしのあり方を再構築する上での重要な一歩となります。より小規模で個性の高いケア環境を通じて、本取り組みは文化的価値観を尊重し、1人ひとりの尊厳を守りながら、住み慣れたコミュニティでの安心した暮らしを支えます。さらにこの取り組みは、住まい・医療・介護を結びつける新たな意義深いアプローチとして、コミュニティに根ざした支援のあり方を推進していくというKeiroの強い意思を示すものです。

今後を見据え、Keiroは高齢者支援を取り巻く支援ネットワークにおいて、戦略的な連携を促進する担い手、助成提供者、そしてパートナーとしての役割を十分に果たせる体制を整えています。孤立や健康上の課題、言語や文化の壁に直面している方々など、最も支援を必要とする人々を優先し、協働、重点的な投資、そして革新的なプログラム設計を通じて、より大きな成果の創出を目指します。



これからのリーダーに求められる役割と影響

Keiroは現在、重要な転換期を迎えています。65年にわたる歴史とコミュニティからの信頼、そして安定した基盤をもとに、次なる発展に向けた歩みを進めています。施設中心のモデルからコミュニティに根ざしたモデルへの移行を成功させた今、文化的配慮に基づく高齢者支援や介護者支援、そしてコミュニティ全体の健康を見据えた新たなビジョンを掲げています。この節目は、これまでの歩みと未来を結びつけ、世代を超えて共感を呼ぶビジョンを築くための重要な機会でもあります。

次期代表兼CEOは、強固な基盤と将来性を備えた組織に参画することになります。安定した財務基盤と、意欲ある理事会およびスタッフに支えられ、Keiroは戦略の明確化と、さらなるインパクトの拡大に向けた体制を整えています。リーダーは、明確な戦略と成果の推進、組織全体の連携強化、そしてプログラムやパートナーシップ、投資を将来ビジョンと一致させるうえで極めて重要な役割を担います。

次期代表兼CEOにとって特に重要な役割の一つは、将来のKeiro Kikyo Homeの方向性を形づくっていくことです。文化的配慮に基づく小規模ケアモデルの構築は、戦略、パートナーシップ、そして長期的な持続可能性のあり方を形づくる大きな可能性を秘めています。この取り組みは、住まい・医療・コミュニティを結びつけるものであり、コミュニティのみならず全国においても、文化に根ざした高齢期支援の新たなモデルとなり得る革新的なアプローチを試行する機会を提供します。

同時に、人口構造の変化や介護ニーズの増大といった外部環境の変化は、Keiroの取り組みの重要性を一層際立たせています。コミュニティに根ざしたケアモデル、医療機関との連携、そして介護者支援の拡充は、Keiroが革新性と発展性をもってリーダーシップを発揮するための基盤となっています。次期代表兼CEOは、Keiroの発信力をさらに高め、コミュニティに根ざした強みを活かしながら、文化的背景を尊重した地域型高齢者支援の全国的モデルとしての地位を確立していく重要な役割を担うこととなります。



候補者プロフィール

Keiroの次期代表兼CEOは、明確なビジョン、文化的理解力、そして確かな実行力を兼ね備え、Keiroが重要な転換期を迎える中でその舵取りを担うことが期待されます。戦略性と実行力を併せ持ち、コミュニティから得た洞察を明確な方向性へと具体化し、関係者との信頼関係を築きながら、変化が続く環境においても責任あるリーダーシップを発揮できる人物です。

日本人および日系アメリカ人コミュニティへの深い献身と、Keiroの使命への情熱を持つ次期代表兼CEOは、これまで築かれてきた強固な基盤を礎に、持続的なインパクトと成長を推進していきます。また、関係者を共通のビジョンのもとに結集し、組織全体の連携を強化するとともに、文化的配慮に基づくプログラムやパートナーシップを通じて、高齢者の変化するニーズに継続的に応えていく役割を担います。

本ポジションプロフィールに記載されたすべての経験を単独の候補者が備えているとは限りませんが、理想的な候補者には、以下に示す専門的および個人的な資質、スキル、特性が求められます。

未来を見据えたビジョンとリーダーシップ

次期代表兼CEOは、コミュニティや関係者の共感を得る魅力的なビジョンを掲げ、65年にわたる歴史を礎に、従来のケアの枠を超えた、より広範な公衆衛生的使命へと組織を導いていくことが期待されます。また、リーダーは、幅広い構想を明確な戦略計画へと具体化し、測定可能な目標と説明責任を伴って実行していきます。コミュニティの声を実行可能な行動へとつなぎます。さらに、日系アメリカ人コミュニティの歴史や価値観、さらには世代間の変化に対する深い理解を基盤として、文化的ルーツを尊重しながら、将来にむけた意義あるインパクトの創出を推進します。大胆なビジョンと組織運営の責任のバランスを取りつつ、強固な財務基盤を活かして革新と持続可能性の両立を図ります。

変化の中で組織を導くリーダーシップ

Keiroは、これまで培ってきた協働的な文化を土台に、さらなる明確さ、推進力、そして一体感をもって次のステージへと導くことができるリーダーを迎える準備が整っています。合意形成を重視してきた意思決定の歴史や、近年のリーダーシップの移行を踏まえ、方向性とコミュニケーションの一貫性の強化が求められています。次期代表兼CEOは、献身的で経験豊かなチームと緊密に連携しながら、信頼を築き、説明責任を強化し、優先事項を明確に定義して着実に実行していく役割を担います。また、協働を重んじつつも意思決定の迅速さを兼ね備え、規律と確実な遂行力をもって取り組みを前進させるとともに、組織をより一体的で将来指向の体制へと導きます。

コミュニティ中心のリーダーシップと信頼づくり

次期代表兼CEOは、信頼される存在として高い発信力を持ち、協働関係やコミュニティとのパートナーシップを築き、日本文化の繊細な背景を理解したうえで、関係者との信頼関係を深めていきます。具体的には、日系アメリカ人の高齢者やその家族、介護者の歩んできた経験に敬意を払い、文化的理解力を発揮しながら、世代を超えた関係性の強化に取り組みます。またコミュニティの声に誠実に耳を傾け、Keiroが信頼される文化的拠点であり続けるとともに、地域団体や医療機関との連携をさらに拡大していきます。さらに、丁寧な関係構築と明確なコミュニケーションを通じて、コミュニティの視点を常にKeiroの活動の中心に据えるとともに、寄付者や関係者の共感と支持を得ながら、継続的な成長と意義あるインパクトの創出を推進していきます。

業務の卓越性とチームのエンパワーメント

次期代表兼CEOは、戦略的な洞察力と確かな実行力を兼ね備え、ビジョンを効果的な実行へと確実に結び付けていきます。これには、プログラム評価の強化、優先事項に基づく資源配分の最適化、そしてデータに基づいた意思決定の推進が含まれます。組織内部においては、豊富な組織知識を持つチームの育成と支援に取り組み、方向性の明確化、説明責任の強化、そして個々の役割と組織全体の目標との結びつきを促進します。また、包摂的で相互に尊重し合う環境を育むことで、組織としての一体感と高い意欲を持ち、Keiroの使命の達成に向けた強いチームを構築します。

パートナーシップ、寄付活動、対外関係の構築

次期代表兼CEOは、コミュニティ団体、医療機関、そして理念を共有する助成団体との戦略的パートナーシップを拡大・深化させることで、Keiroの活動範囲とインパクトの向上を推進します。また、プログラムと明確で説得力のある成果を結びつけることで資金調達力を強化し、寄付者や財団との強固な関係を築いていきます。この取り組みの中心となるのは、Keiroの進化し続けるストーリーを明確かつ継続的に発信する力です。日系アメリカ人コミュニティにおける深い歴史的基盤を尊重しながら、その歩み、ビジョン、そして社会的インパクトを、多様で多世代にわたる人々の共感を得られるメッセージとして伝えていくことが求められます。さらに、パートナーシップと資源開発を戦略的優先事項と整合させることで、Keiroの持続的な成長と、より広い影響力の実現を支えていきます。



報酬・福利厚生

報酬は経験・実績に応じて決定され、競争力のある水準となっています。本ポジションの給与レンジは20万～25万ドルで、充実した福利厚生制度を備えています。

連絡先

本案件については、DSG Koyaが専任で採用支援を担当しています。本ポジションにご関心のある方は、プロフィールをご提出いただくか ([filling out our Talent Profile](#))、採用チームまで電子メール (keiro_ceo@dsgco.com) で直接ご連絡ください。すべてのお問い合わせおよびご相談内容は、厳重に機密として取り扱われます。

DSG Koyaは、障がいのある方々に対して合理的配慮を提供することに取り組んでいます。障がいのある応募資格者で、オンラインでの応募に際して支援が必要な場合は、NonprofitSearchOps@divsearch.comまでご連絡ください。面接に進まれた方には、面接プロセスにおける合理的配慮の申請方法について、追加情報をご案内いたします。

Keiroは均等雇用機会を重視する雇用主です。人種、宗教、祖先、出身国、性別、性的指向、年齢、遺伝情報、障がい、婚姻状況、ドメスティックパートナーシップの有無、医療上の状態、その他連邦法・州法・地方自治体の法令

DSG Koyaについて

DSG Koyaは、DSG Global傘下の企業であり、ミッション主導型リーダーシップ採用に特化しています。2004年の創業以来、一貫してミッション重視のクライアントに特化して活動しており、「適切なリーダーは組織を変革し、社会に深く測定可能なインパクトをもたらす」という信念のもと設立されました。DSG Koyaは、地域社会からグローバル規模に至るまで、非営利団体(NPO・NGO)、社会的責任を重視する企業、そしてソーシャルエンタープライズと協働しています。

DSG Globalは、Forbes誌による「アメリカ最高のエクゼクティブ・リクルーティング会社」トップ10に継続的に選出されており、変化する時代において組織変革を導くリーダーの採用分野における業界のリーダーとして高く評価されています。同社は、その独自のアプローチでも知られており、多様性への深い理解と包括的なリーダー育成、そして公平性を重視したチームづくりにおいて、数十年にわたる経験を有する優秀なチームによって支えられています。

DSG Koyaについての詳しい情報は、[firm's website](#)をご覧ください。